

2024年度 幼稚園自己評価

日南鉄肥カトリック幼稚園

「できている」ことが…A:8割以上 B:5割以上～8割未満 C:2割以上～5割未満 D:2割未満

教育保育方針・宗教教育について			
I	評価の主な観点	主な取組	評価(案)
1	本園の理念を踏まえ、めざす子ども像を意識した教育保育を行っている。	○全職員参加の研修会を複数回設けたり、めざす子ども像の具体的な姿をすり合わせたりして共通理解を図った。 ○毎月の聖書の時間を中心とした宗教教育を計画的に行った。 ●絵本や写真も活用し、お祈りや賛歌の意味を丁寧に伝えていく。	B
2	カトリックの精神に基づいた宗教教育を実践している。		
指導計画の作成について			
II	評価の主な観点	主な取組	評価(案)
1	発達の見通し、生活の連続性、季節の変化などを考慮しながら、計画的に教育保育を行っている。	○指導計画の様式を見直し、次の活動への繋がりがより明確になるような内容とした。 ●保護者や地域にも幼児教育の価値と重要性が発信できるような記録と評価が実現できるように工夫していきたい。(ドキュメンテーション)	B
2	めざす子ども像を意識して、年齢に応じた自己決定の場を設けている。		
防災教育について			
III	評価の主な観点	主な取組	評価(案)
1	常に防災・安全マニュアルを整備し、防災備品の充実に努めている。	○8月の地震の教訓を生かしながら毎月避難訓練を実施し、様々なケースを予想しながら非常時に備えている。 ○AEDや見守りカメラ、地震速報システムや電磁錠システムの定期点検を行い、施設の充実に努めている。 ●行政とも連携した対策を進める必要がある。	B
2	訓練の結果を振り返り、次に生かすようにしている。		
環境・安全管理について			
IV	評価の主な観点	主な取組	評価(案)
1	安全で衛生的な環境が整えられ、備品等も効率的、かつ安全に配置されている。	○役割分担や情報の共有法を見直し、安全な環境がさらに整いつつある。 ○保育理念を踏まえた遊具、玩具の整備が徐々に進んでいる。 ○対応マニュアルの見直しや、外部研修を通して対応力向上を図った。 ●定期的にマニュアルの確認をする。	A
2	必要な玩具・遊具、非常時の備蓄が整備されている。		

行事について			
V	評価の主な観点	主な取組	評価(案)
1	本園の方針に沿った具体的なねらい及び内容が明確にされている。	○主な行事についてはアンケートや説明会を実施し、保護者の意見も聞きながら改善に努めている。	B
2	実施後は反省をし、次へ生かすようにしている。	○役割分担を明確にし、子ども主体の行事となるよう内容の充実を図った。 ●地域とのつながりも更に工夫したい。	
情報管理・発信について			
VI	評価の主な観点	主な取組	評価(案)
1	各種たよりを定期的に発行し、保護者の理解を得る努力をしている。	○各種たよりに加え、ホームページやFacebook、Instagramも活用し、日常の保育の様子や行事案内に関する情報発信を行っている。また、急ぎ知らせる必要がある情報は、メールを活用して迅速な提供を心がけている。	A
2	行事や園の取組など、必要な情報が適切に発信されている。	○セキュリティに関する研修を行い、情報の適切な管理に努めている。 ●災害時の連絡方法を複数確立する必要がある。	
子育て支援について			
VII	評価の主な観点	主な取組	評価(案)
1	ひよこクラブの内容を工夫しながら計画的に実施している。	●未就園児向けのひよこクラブと園庭開放を予定していたが、8月の地震以降、場所が確保できず実施できなかった。	C
2	各種たより、HPやFB等で子育て支援に関する情報を発信している。	●子育て家庭の悩みや不安解消に貢献できるよう、今の施設環境で可能な支援内容を工夫していきたい。	
人権・特別支援教育について			
VIII	評価の主な観点	主な取組	評価(案)
1	偏見や差別的な言動、掲示物には十分注意している。	○発達支援事業を5月から開始し、順調に療育を実施できている。 ○特に配慮が必要な園児に対して有効な支援ができるよう、研修内容の充実を図り、関係機関とも連携を密にしている。	B
2	一人一人の立場に寄り添った対応をしようと努めている。	●職員研修をさらに充実させ、全職員が同じ姿勢で保育に当たれるよう、共通理解、共通実践の徹底を図りたい。	

衛生・食育について			
IX	評価の主な観点	主な取組	評価(案)
1	給食やおやつの献立や量は適切である。	○塩こうじの使用増、ミネラル補強、無添加食材の選定、野菜栽培と連携したメニューの工夫等を行い、さらに良質の給食を提供できるようになってきた。	A
2	感染症やアレルギーへの対応は適切である。	○アレルギー対応の除去食に関する事故がないよう、配膳方法を工夫している。 ●今後も参観日等での試食会や食育に関する講演会を実施し、食の大切さを保護者と共に考える雰囲気を醸成したい。	

小学校・地域・保護者連携について			
X	評価の主な観点	主な取組	評価(案)
1	小学校と連携した取組を行っている。	○地震被災の影響はあったが、運動会や発表会、参観日等は、ほぼ予定どおり実施し、ねらいを達成できた。	B
2	地域と連携した活動を行っている。(感謝訪問、施設訪問、収穫体験)	○飢肥地区の幼保小連携を図る取組は、園児と小学生の交流や職員間の情報交換も予定どおり実施でき有意義であった。 ●改修工事が終わるまで例年通りの保育環境が提供できない部分もあるが、保護者にも丁寧に情報発信をしながら、今、目の前にいる子どもたちが「ここにいてよかった」と思えるような日々を重ねていきたい。	
3	保護者(会)との細かに連携を図っている。		

評価委員様ご意見欄

○お祈りの意味を理解させる事は、年齢的に厳しいと思うが、行事などの際も、皆が一旦気持ちを落ち着かせ、先生方の話を聞く態度がとれている事が素晴らしいと思う。

○大きな地震に見舞われたが、乱れることなくきちんと座って待つことができていた。日々の積み重ねが非常にできていると感じた。災害時マニュアルや心のケアが徹底されており、子どもたちは安心して登園を再開できていた。

○子ども主体、子ども目線の教育保育が行われており、人としての根っこが培われている。

○屋内外を問わず、備品が整頓されている。玩具等も片付ける場所がきまっており、子ども達も片付けやすく出しやすい環境に整えられている。

○被災して活動に制限がある中でも、お弁当の有効活用などで園外活動を精一杯充実させている。

○保護者会の意見にも耳を傾け、検討、実行している。もっとたくさんの保護者、先生方と意見交換ができるとよい。

○給食はとても美味しく、卒園生も「あれは美味しいよ」と覚えている。試食会もよい試みである。

○発達支援事業所も、親身になって子どもや保護者に寄り添った療育を行っている。保護者向けにも発達支援に関する講演会等を実施してもらいたい。

